



コスモスだより

独立行政法人 地域医療機能推進機構 天草中央総合病院

令和7年1月発行
編集:天草中央総合病院広報委員会

今年は皆様に幸運が訪れますように

院長 芳賀 克夫

皆様、新年あけましておめでとうございます。今年は巳年ですが、へびについて考えてみましょう。へびはなぜ手足がないのでしょうか。へびはもともとトカゲの仲間、手足はあったそうです。へびは地中を潜って生活することが多く、進化の段階で手足を失ったそうです。また、体を細長くして、地上や木の上、水中などで生息できるように進化しています。へびは世界中のあらゆる場所に生息していますが、地中に潜ることにより天敵から身を守っているのでしょう。

へびというと、金運があるとされています。へびの抜け殻を財布に入れる風習もあります。また、へびは神の使いとして各地で敬われています。常にヒトの近くにおいて、長年親しまれてきました。

私が以前地方の病院に赴任した時、その病院の宿舎に家族で住んでいました。宿舎の庭は草が多く、小さな池もありました。休みの日に庭を眺めてっていると、なんと2メートルを超えるアオダイショウがこちらを見ているではないですか。本当に腰を抜かしました。私は怖くて近づくことが出来ませんでした。後日、業者さんに頼んで庭の草を刈ってもらいました。その後はアオダイショウにお目にかかることはありませんでした。きっとどこかに移動したのでしょう。

今は住宅街でへびに出くわすことは少なくなりました。しかし、へびやカエルがいる環境は人間にも優しいのかもしれない。へびを見かけた昔の時代を懐かしく思い出します。



独立行政法人地域医療機能推進機構 天草中央総合病院
〒863-0033 熊本県天草市東町101番地
TEL 0969-22-0011 FAX 0969-24-2105
ホームページアドレス <http://amakusa.jcho.go.jp>

第9回JCHO地域医療総合医学会が 「杜の都仙台」で開催されました

看護部 古賀敦子



JCHOは全国に57病院ありますが、その病院が一同に会す学会が年に一度開催されます。今年の開催地は、杜の都仙台であり、秋も深まった時期で、紅葉がすばらしく眼の保養となりました。

また、牛タンやずんだ餅など、仙台の美食も味わってきました。少し学会の様子をお知らせいたします。

さて、当院からは10題と昨年度より6演題増やした発表でした。

さて、学会では1日目に懇親会が開催されます。そこでの料理や余興も楽しみの一つなのですが、今年は仙台青葉まつりの「仙台すずめ踊り」を披露してもらいました。そのお囃子に、当院から参加した職員は写真の扇子をもって、会場で踊りました。とても楽しかったのだと思います。いい思い出になりました。



《参加した職員の感想です》

●「母体の急変の感知に関する実態調査」（助産師 吉本真希子）

分娩後の産科異常出血の場面におけるスタッフの急変の感知について実態調査を行い、学会で発表しました。結果、呼吸数の観察・産科的管理における看護師の視点の強化、ショックインデックスについての再教育が必要という課題が明らかになりました。今後は、課題になった点について部署全体で実践力を強化していきます。

●「当院における長尺撮影の比較検討」（診療放射線技士 吉田憲一）

仙台市で行われたJCHO地域医療総合医学会に参加、研究発表しました。私は整形外科で行われている骨切り術の検査前後で撮影する下肢長尺撮影について、以前のIPシステムと昨年度4月から導入しているFPDシステムとの撮影の比較検討について研究発表しました。また、全国のJCHO職員の発表を聞く事ができ学びの多い機会となりました。

●「LBC標本の染色検討について」（臨床検査技士 白谷崇）

今回初めてJCHO学会に参加・発表を行いました。発表資料を作るにあたり、聞く人にいかにわかりやすく資料作成できるかが大切だということ学びました。また自身の仕事内容に関して改めて理解を深めることができ、今後の仕事に生かしていけるように努めたいと思います。

●「COVID-19陽性帝王切開術のシミュレーションの実施とその効果」（看護師 野方雅美）

手術室からは、「COVID-19陽性帝王切開術のシミュレーションの実施とその効果」というテーマで発表しました。日頃の取り組みを研究としてまとめることや、スライド作成などとても学びがありました。仙台では天候にも恵まれ、参加者も多く大変活気のあるものでした。今回の学びを今後活かしていこうと思います。

●「大腿骨近位部骨折患者に対する管理栄養士の関わりと今後の課題」(管理栄養士 野島倫子)

学会での発表は初めての経験でした。大腿骨近位部骨折の患者は低栄養状態の高齢者または内科的合併症を抱えた中高年層が多く、それぞれへの関わりが必須です。地域包括医療病棟の運用も始まり、専任栄養士としてしっかり関わっていかなければならないと改めて感じさせられました。大変貴重な経験をさせて頂き、有難うございました。

●「病院感染管理者として併設する附属介護老人保健施設への関わり～新型コロナウイルス感染症5類感染症に移行後の対応の変化～」(感染管理認定看護師 坂本陽子)

私は、11/30(土)に、病院感染管理者として併設する附属介護老人保健施設への関わりについて発表してきました。他施設の感染管理についての発表を拝聴することができ、貴重な経験をさせていただきました。仙台の食べ物はどれも最高でしたが、特に仙台名物牛タンがとても美味しかったです。学べて、おいしいものが食べられ、貴重な体験をさせていただいたことは、仕事を継続する上で励みになります。現場で疲れ果てている職員の方々には、是非経験してもらいたいなと思いました。

●「高規格救急車でネーザルハイフローを使用する取り組みについて」(臨床工学技士 津田祐一)

JCHO総合医学会に参加するにあたり、部会や懇親会において、各施設の臨床工学技士長と顔の見える交流が出来、親睦を深めることが出来ました。学会発表では、特色を活かした取り組みやタスクシフト・シェアの報告が多くあり大変参考になりました。今後も、スケールメリットを活かして横のつながりを大切にしていきたいと思っています。

●「AS活動がAccess抗菌薬の使用比率に与える影響と評価」(薬剤師 道野南風)

先日、第9回地域医療総合医学会へ参加いたしました。私のほうからは、当院の抗菌薬適正使用支援活動についてご報告いたしました。他施設でも同様の問題に取り組まれている方々と情報交換ができ、有意義な時間を過ごすことができました。今回学んだ事を活かし、より良い医療を提供できるよう努力してまいります。

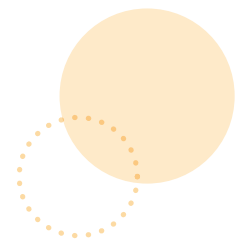
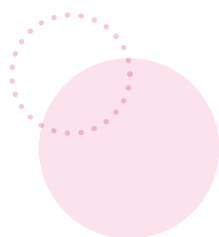
●「終末期リハビリテーションに対する意識調査～リハ職・看護職へのアンケートをもとに～」

(理学療法士 隈部賢斗)

私自身、JCHO学会への参加やポスター発表は初めての経験でしたが、程良い緊張感と和やかな雰囲気の中で発表することができました。他院の取り組みなども学びになり、懇親会含めて大変有意義な時間を過ごすことができました。発表に際しご協力いただいたリハ科の皆さんや4階病棟看護師の皆さんには重ねて御礼申し上げます。

●「症状緩和に苦難した壮年期のがん患者の在宅看取りからの学び～アギュララの危機理論を用いた家族看護の振り返り～」(訪問看護ステーション看護師 川上ゆみ)

事例研究のポスター発表を行いました。在宅看取りを行う中で家族看護を深く考えることができ、今後の訪問看護に生かしたいと思っています。また、他の部署の発表を聞き、チーム医療の重要性を再認識しました。



天草地域感染症患者等移送訓練に参加して

感染防止対策室 坂本 陽子

熊本県と天草広域連合の「感染症患者等の移送に関する協定書」に基づき、消防の救急車両を使用した患者等移送の模擬訓練を行い、天草管内で感染症患者等が発生した際における医療機関の感染対応能力向上と患者等移送訓練体制の強化を図ることを目的として、今回4度目となる訓練を11月12日に、天草保健所、天草広域連合、天草郡市医師会、感染対策向上加算施設と合同で行いました。当院は、第二種感染症指定医療機関となる病院です。鳥インフルエンザの感染疑いのある患者を天草市の民間医療機関から当院へ搬送する訓練を行いました。想定患者は、野鳥の死骸に接触した経緯があり、民間病院に受診。鳥インフルエンザ疑いとして、民間病院から天草保健所に相談され、保健所で検討後、感染症指定医療機関である当院へ搬送するという内容の訓練でした。

鳥インフルエンザとは、トリに対して感染性を示すA型インフルエンザウイルスのヒトへの感染症です。ヒトにおけるほとんどの感染者は、感染した家きんやその排泄物、死体、臓器などに濃厚な接触があると言われており、日本では発症したヒトはいませんが、海外には感染したヒトがいます。東南アジアを中心に、欧州、北米、南米において報告されています。鳥インフルエンザは、感染症法で2類感染症に位置づけられ、厚生労働省は、発生地域から帰国した人で、帰国後発熱やせき等の症状が出現した際は、鳥(死んだ鳥を含む)や患者に接触したヒトは、保健所へ相談するよう説明してあります。しかしながら、鳥インフルエンザの症状は、一般的なインフルエンザの症状と同等のもので、発熱された患者は自宅近くの病院に受診される可能性が高く、天草地域の搬送訓練もそのことを想定して実施しました。総勢26施設69名の参加人数でしたので、WEBを利用したLIVE配信として、1つの会場で訓練の流れが全て見学できるように整えました。訓練終了後、参加者と個人防護具の着脱訓練を実施し、天草管内のどの施設で、鳥インフルエンザが発生しても対応できるように工夫しました。意見交換会では、いくつかの意見等がきかれ、有意義な訓練となりました。今後も、天草圏域の第二種感染症指定医療機関として、感染対策防止に関わっていきます。



【看護部より】

就職説明会～人材獲得～に向けた動き～

○「看護のワークフェアin天草」への参加

熊本県内の看護師が就業している地域は熊本市内に6割と集中しています。天草地域は熊本県内で100床あたりの看護師数が阿蘇に次いで2番目に少ない圏域です。そこで、熊本県と熊本県看護協会ナースセンターは、昨年から開催している「看護のワークフェアin天草」で、潜在看護師の掘り起こし・プラチナナース(55歳以上の看護職のことを指します)の就業支援・天草地域での看護職の定着を目指しています。



当日は、天草圏域で活躍している看護師2名の方に、学生さんやこれからの就業を迷われている方へのエールとして講話がありました。そのほか、プラチナナースに長く勤めてもらうために、今後の資産管理の参考になるお話が専門家よりありました。

各病院の紹介ブースは、昨年より増え11施設あり、アピールも積極的にされていました。もちろん当院も参加し、JCHO病院の役割などを話しました。

感想としては、自分のライフスタイルや能力に合わせたいろんな働き方があるんだなあという感じでした。また、健康で身体がうごくうちは、何歳になっても働かなきゃ！という気持ちにもなりました。

○「メディテレ 医療業界就職説明会:私の人生 主役は私～私が一番輝ける場所へ～」KKTイノベート主催



今年初めて、KKTイノベートの就職説明会に参加してきました。これまで参加した就職説明会と違うポイントは、参加した学生さんへ向けた嗜好が色々と工夫されていたことです。その内容は、プロのカメラマンによる履歴書用写真撮影会や就活用のメイクアップレッスン、最後にお楽しみ抽選会等でした。また、この説明会を利用することで、サービスでアピール動画を別途撮影してもらえることで申し込みました。

そこはさておき、今回の看護部の目的は、助産師獲得です。助産師志望の学生さんがブースに訪れてくれて、当院の若手助産師に働き方や、分娩介助の経験を詳細に聞き入ってくれ、当院に興味を持ってもらえました。他には、診療放射線技師の大学生が訪れてくれて、JCHOのアピールや、就職先を選ぶポイントなど、お節介な話もしてきました。私にとっては、異業種の学生さんと話せて楽しい一日でした。

看護部:古賀敦子

天草支部看護研究発表会での発表

看護協会は「生きるを、ともに、つくる。」をタグライン、ステートメントとしていろんな事業を展開しています。その一環として、看護職員の知識向上を目指すため、看護研究発表会を開催しています。天草支部においては、第37回と長期にわたって継続している発表会です。今年度は7題の発表があり、そのうち2題は排泄に関すること、2題は口腔ケアに関すること、あとの3題は看護管理に関する接遇や患者の私物管理等でした。当院から1題発表いたしましたので、その報告を看護部長の古賀がいたします。

演題名：「患者の私物チェックリストの作成及び私物管理の実態」田尻真紀看護師

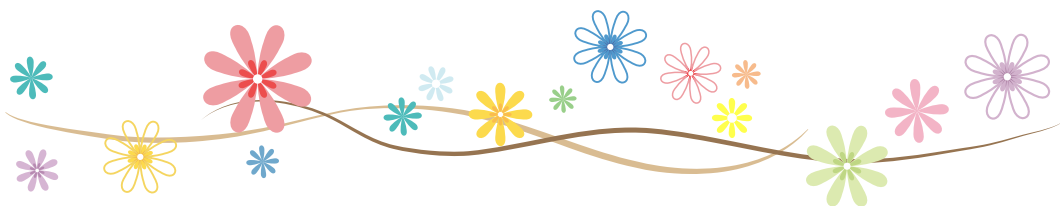
外科病棟は、手術を受ける患者の高齢化、手術による認知機能の低下、転院や手術によるベッド移動等、患者移動が目まぐるしいのですが、その中で、「患者の私物＝唯一無二の物」が紛失すると大変です。患者の日常生活に欠かせないものは、義歯や補聴器です。これが紛失するとなると、手術後の栄養に関わってきますし、補聴器が紛失すると、手術後の患者のコミュニケーションが円滑にいかなくなることも予測されます。それを防ぐために、チェックリストを作成し、活用した取り組みの発表でした。

発表の他に、学会では、発表と会場との質疑応答を円滑に進める座長という役割の人がいます。当院では、日常生活にかかわる4題の群の座長を、地域医療連携室の須崎了子看護師長が努めました。また、支部役員でもある川上幸恵副看護部長が、司会という大役を務められ、当院の職員が大活躍の一日でした。

秋晴れの天気の良い日ではありましたが、沢山の参加があり、質問も活発に出ていていい会でした。



皆さんお疲れ様でした。
発表終了後のほっとした表情が印象的です♪
また、協会からシクラメンを
発表者へ贈りました。
(看護部 古賀敦子)



【部署紹介No.13】

《栄養管理室》

主任管理栄養士 野島 倫子

栄養管理室は老健の1階にあり、病院管理栄養士3名、老健管理栄養士1名が在籍しています。病院管理栄養士は病棟担当制で入院患者様の栄養管理、栄養指導、各科の病棟回診、カンファレンス参加などを行い、外来患者様に対しては栄養指導、化学療法の患者様への栄養相談などを行っています。9月からは地域包括医療病棟の運用も始まり、専任の栄養士が配置され、多職種連携を大切にチーム医療に取り組んでいます。

老健管理栄養士は全入所者の栄養マネジメントをはじめ、併設歯科医師の協力を得て、ミーラウンドを行い、口から食べるための取り組みを行っています。

給食管理業務は日清医療食品に全面委託しており、委託職員の皆様と協力しながら入院患者様にとって、安心・安全で美味しい食事の提供に努めています。最近は治療食・個別対応食の割合が提供食の5割を超えている状況です。そのような状況の中でも私たち管理栄養士は食べる楽しみを持ち続けてほしいと願い、患者様の喜びに繋がるよう、できるだけ多くの患者様の声に寄り添いながら、日々の食事対応に努めています。

食事の事で何かありましたら、いつでもご相談ください。

また、市民の皆様に向けた公開講座も行っています。講座内容に沿ったお食事を準備し、生活習慣病予防のための講義内容となっています。ご興味のある方は是非ご参加ください。職員一同お待ちしております。

【お知らせ】

NHK連続テレビ小説「おむすび」が放送されています。

管理栄養士・栄養士に光を当て、「人は食で作られる。食で未来を変えていく。」がこのドラマのテーマになっています。主人公が栄養士を目指すきっかけや日々の成長の姿に私も学生時代を思い出し、懐かしい思いで毎日楽しく見えています。

管理栄養士・栄養士という仕事は派手ではありませんが、人々に栄養の大切さをお伝えする重要な職業であると思います。ドラマを見て将来管理栄養士・栄養士を目指す方が増えるといいなあと思います。皆様もぜひご覧になってください。



天草中央総合病院での実習を終えて

長崎国際大学 健康管理学部 健康栄養学科 4年 船辺未沙紀

まずは、実習生の受け入れについて厳しい制限がある中、8日間の実習を行うことができたこと非常にありがたいと思います。この実習の中で、病棟回診に参加したり、外来指導に参加したりすることで、どのように患者様に対して栄養の面から介入していくかについて直接見ることはできなかったものの、カンファレンスの見学や施設内、医療機器に関する説明を受けることにより管理栄養士と病院内で働いているあらゆる職種との関係性やチーム医療としての連携について学ぶことができ、非常に充実した実習となりました。

3名の管理栄養士の先生から各科の栄養管理について学び、患者様にとって最適で最良な栄養管理を行うために必要なことや注意点について教えていただき、実際の現場で働く際に求められる知識や実践力を身につけるとても良い機会となりました。

今回の実習を通して、病院管理栄養士の役割について深く学ぶことができたため今後は実際に病院管理栄養士として働くために必要な知識の習得や定着に努めていきます。

短い間でしたがこの天草中央総合病院で実習ができたことに大変うれしく思います。ありがとうございました。

長崎国際大学 健康管理学部 健康栄養学科 4年 片山翔

今回、実習を受け入れていただきありがとうございました。実習では、臨床における管理栄養士の在り方や業務について実際の現場から学ぶという目標で参加しました。実習内容の変更により病棟を回ることはあまりできませんでした。その中でも病院の管理栄養士の先生の実際に体験したことなど貴重な話を聞くことができたため学びが多くあったと感じます。外科・内科・褥瘡・外来・産婦人科・整形外科・経腸栄養管理について主に学び、すべての栄養管理で他職種との連携がなされており、それぞれの職種からの意見により患者様の治療が行われていることが分かりました。そこでは、患者様とのコミュニケーション能力はもちろんですが、他職種の方々とのコミュニケーション能力も必要であると感じました。また、より良い意見交換のためには少しでも他職種の知識を持っておくことも大事なことであったと感じました。栄養指導では、病態や職種、年齢、性別、人種の違う患者様がたくさんおられ、その都度栄養指導の方法も変更していく必要があることが分かりました。そこから、患者様の特徴をしっかりと捉えてそれぞれに合った最適な指導プランを考えて実施する必要があると考えました。

今回の実習を通して病院における管理栄養士の業務を実際の現場で学ぶことができたと思います。今後、これらの知識を生かせるように定着させていきたいです。2週間、天草中央総合病院で実習できたことを大変うれしく思います。有難うございました。



「令和6年度医療安全対策地域連携のための相互チェック」を行いました

医療安全管理室 山本美智子

医療安全対策地域連携のための相互チェックは、医療機関同士相互に病院を訪問して、医療安全管理体制の実態の把握と不十分な箇所を改善する目的のためと、有益な情報交換のために行っています。そして、この相互チェックは互いに指摘し合うことが目的ではなく、医療機関同士が医療安全に対する取り組みを共有することでお互い高め合い、また他施設の取り組みを知ること、自院の改善策を検討するヒントを得るために行っています。

当院は毎年、天草地域医療センターと相互チェックを実施しています。11月27日は天草地域医療センターから当院に訪問調査に来ていただき、チェックシートによる調査と、病棟ラウンドによる実地調査をして頂きました。毎年行っていることですが、形骸化することなく、常に新しい発見があり、天草地域医療センターの訪問調査に関わっていただく職員の皆様のご協力に感謝しています。今後、ますます双方の医療安全対策のクオリティが向上するよう、努力していきたいと思えます。



令和6年度天草地域医療センター・天草中央総合病院合同緩和ケア研修会が開催されました

12月1日(日)天草地域医療センターで「令和6年度天草地域医療センター・天草中央総合病院合同緩和ケア研修会」が開催されました。歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士の18名の参加となりました。参加者の皆さんは事前に各自でe-learning でカリキュラムを終了していただき、1日のみ集合研修として講義・グループワーク・ロールプレイングが行われました。

ファシリテーターとして濱口裕光先生(有明医療センター 外科診療部長兼緩和ケア内科部長)、吉田稔先生(日本赤十字社 熊本健康管理センター所長)、采田志麻先生(熊本赤十字病院 緩和ケア内科部長)をお招きし、午前中はe-learningの振り返りの講義、午後からはロールプレイングとグループワークがありました。初めは皆さん緊張されていましたが、午後からのグループワークになると、それぞれの職種の立場からの発言もどんどん増えていきました。今回は看護師さんの参加が多かったのですが、病院の看護師さん、訪問看護の看護師さん、地域包括支援センターの看護師さんとして意見を出し合うことで、それぞれの立場の理解が深まり、明日からの業務に活かしていただけるのではないかと思います。



2025年 外来診療担当表(1月)

受付時間: 午前8時30分～午前11時00分 (受付時間は診療科で多少異なります)

診療科	月	火	水	木	金	
内科	呼吸器内科	荘田 恭朗	荘田 恭朗	金子 篤志 小松 太陽		金子 篤志
	消化器内科				岩澤 秀	岩澤 秀
	腫瘍内科	熊野 御堂 慧			熊野 御堂 慧	
	血液内科		宮家 宏 定			大 学
	循環器内科				荒木 智(大学)	
	代謝内科	渡邊 拓 郎(大学)				
	緩和ケア	※ 休 診 中				
	二次検査 担当		竹口 東 一 郎	竹口 東 一 郎		
	備考	外来診療は予約制です。				
外科	診 察	坂本 慶 太	村上 聖 一	坂本 慶 太	(担 当 医)	村上 聖 一
	乳腺・その他 検査	竹口 東 一 郎	坂本 慶 太	村上 聖 一	稲尾 瞳 子 受付時間: 13:30～15:30	
	備考	火・木・金曜日は予約の方のみとなります(新患はお受けできません)。 金曜日は乳腺・その他検査が出来ません。第1・3・5木曜日の午前は手術です。 ※稲尾Dr(木曜・午後のみ診察)は事前に電話予約が必要です。				
整形外科		木山 貴 彦	木山 貴 彦	真田京一(第1・3・5)	木山 貴 彦	大森 治 希
		大森 治 希	大森 治 希	森 修(第2・4)	斧出 大 紀	斧出 大 紀
		斧出 大 紀				
	脊椎外来			塩川 晃 章 受付時間: 10:00～15:00		
	備考	手術は毎週水曜日です。				
産婦人科		荒木 眞 佐 子	荒木 眞 佐 子	荒木 眞 佐 子	荒木 眞 佐 子	荒木 眞 佐 子
		小 林 克	岩 崎 聡 美	小 林 克	小 林 克	岩 崎 聡 美
		落合 み ゆ き	小 林 克	落合 み ゆ き	落合 み ゆ き	落合 み ゆ き
			落合 み ゆ き	片 瀨 秀 隆 (第2・4水曜のみ)		
放射線科		担 当 医	吉住 和 弘	高 群 博 登 大津家裕二(大学) (放射線治療医)	高 群 博 登	担 当 医 松山知彦(大学) (放射線治療医)
皮膚科		一期崎 優 季(大学)			島 田 秀 一(大学)	
歯科口腔外科		田 中 拓 也	田 中 拓 也	田 中 拓 也	田 中 拓 也	田 中 拓 也
		玉 寄 匠	玉 寄 匠	玉 寄 匠	玉 寄 匠	玉 寄 匠
		午後は13:00～16:00の受付時間です。毎週火曜日・第1・3・5木曜日は午前中手術の為、午後からの診療です。				

◎学会等により休診となる場合もございますので御了承ください。



独立行政法人地域医療機能推進機構
天草中央総合病院
 〒863-0033 熊本県天草市東町101番地

TEL) 0969-22-0011(代表)
 FAX) 0969-24-1808(連携室)
 0969-24-2108(医事課)